

日本語日本文学科

1. 教育研究上の目的

日本語日本文学科は、古代から現代までの日本語・日本文学・日本文化、国際的な視野に基づいた日本語教育・言語学などに関する授業を通して、実証的で堅実な研究方法を身につけるとともに、創意に満ちた国際的な感覚や学際的な関心を持った人材の育成を目指す。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

日本語日本文学科では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「学士（日本語日本文学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 日本語、日本文学・文化、日本語教育に関する知識を修得し、関連する諸問題を最新の学問的成果に基づいて理解することができる。
2. 多様な情報ツールを活用して、情報を収集し考察して、その成果を他者や社会に適切に発信することができる。

（思考・判断・表現）

3. 自ら思考し、それを他者に伝える努力を怠らない。
4. 社会との関係を視野に入れて、判断することができる。
5. 日本と世界の文化的・人間的交流の中で自己表現できる。

（関心・意欲・態度）

6. 本学科の課程を誠実に学習することが、日本語、日本文学・文化、日本語教育に関する知見を深めて、社会的・国際的な関心や視野を養う基礎を築くために重要であることを理解することができる。
7. 授業で提示された課題を考察する際には、興味をもった問題についてもあわせて追求して、問題意識を養うことができる。
8. 自らの問題意識にしたがって、自発的に資料を収集し学問的な知見を広めて、既成の枠組を越えた考察をすることができる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

日本語日本文学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

(教育内容)

1. 幅広い教養や現代的な情報スキルを身につけるため、「全学共通科目」を配置する。(知識・技能／関心・意欲・態度)
2. 世界と交流するための語学力を養うため、「外国語科目」を配置する。(知識・技能)
3. 日本語学、古典文学と近代文学研究の初歩を学ぶため、1年次に「日本語学講義」「日本文学講義」等を配置する。(知識・技能／関心・意欲・態度)
4. 学生自身の興味に合わせて、2年次から「日本語日本文学系」「日本語教育系」の専門コースのうち、どちらかを選択する。(関心・意欲・態度)
5. コース選択後、2～3年次において、研究の基礎を学ぶ「概説科目」、最新の研究成果を学ぶ「講義科目」「演習科目」を、それぞれ配置する。(知識・技能／思考・判断・表現)
6. 4年次において、卒業論文を執筆する。(知識・技能／思考・判断・表現)

(教育方法)

1. CAP制を実施し、1年次から卒業年次まで、卒業のために修得が必要な科目の履修登録の上限を設け、それぞれの科目に十分な学修時間を確保できるようにする。
2. 学生の主体的学修を支援できるよう、アクティブ・ラーニング等の教授手法を積極的に取り入れる。
3. 少人数教育を演習、実習等で実施し、学生の能力・資質に応じた学修ができるようにする。
4. 準備学習（予習・復習）の内容と時間をシラバスに明示し、学生が授業の予習・復習や応用的活動を通じて自律的な学修ができるようにする。
5. 教員のオフィスアワーを設けることで、毎週特定の時間帯に、学生は自由に教員に授業内容の質問をすることができ、履修計画や就職相談など、様々な相談にきめ細かく応じる。

(教育評価)

1. 日本語日本文学科のカリキュラムの評価は、卒業・進級判定、科目ナンバリング、GPAの活用、在学生調査、シラバス記載内容等の実態把握に基づいて総合的に行う。
2. 学生個人の教育評価は、卒業要件単位数の充足、卒業論文等の評価、GPAによる判定、社会と関わる諸活動の成果等の実態把握に基づいて総合的に行い、学修支援に生かす。

4. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

日本語日本文学科では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 高等学校までの履修内容のうち、国語、外国語、数学、地理歴史、公民について、基本的な内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
2. 教科書だけでなく、興味のあることについて読書をする習慣を養っている。

(思考・判断・表現)

3. 高等学校までの履修内容のうち、特に、国語科などを通じて、日本語・日本文学・日本文化・日本語教育について、深い興味と関心を持っているとともに、話す・聞く・読む・書くというコミュニケーションの基礎的な能力を身につけている。
4. 高等学校までの英語などの外国語教育をいかして、世界と交流する自覚を持っている。

(関心・意欲・態度)

5. 日本語・日本文学・日本文化・日本語教育に関する現代的、国際的、あるいは歴史的な諸問題について、気になることを発見したら、図書館やインターネットなどを活用して、自主的な学習に取り組む意欲がある。
6. 収集した知識や情報をもとに、論理的に考察して、その結果を説明することができる。

以 上